

リサーチグループの名称		難治性免疫疾患・アレルギー			
リサーチグループの名称(英語)		Molecular mechanism and regulation in autoimmune diseases and allergy			
名前	所属部局	職名	専門	学位	役割分担
住田孝之	医学医療系内科(膠原病・リウマチ・アレルギー)	教授	臨床免疫学、膠原病内科学	医学博士	代表者
渋谷 彰	医学医療系免疫学	教授	免疫学	博士(医学)	自己免疫病、アレルギーの病態の解明とその分子標的療法の基盤開発
高橋 智	医学医療系 解剖学・発生学および生命科学動物資源センター	教授	発生工学	医学博士	遺伝子改変マウスの作製
土屋尚之	医学医療系分子遺伝疫学研究室	教授	ゲノム医科学、リウマチ膠原病	博士(医学)	膠原病を中心とするヒト自己免疫疾患のゲノム解析
有波忠雄	医学医療系遺伝医学	教授	遺伝医学、ゲノムサイエンス	医学博士	アレルギー疾患のヒトゲノム研究の統
檜澤伸之	医学医療系内科(呼吸器)	教授	呼吸器内科	医学博士	難治性喘息多様性の遺伝学的解析
渋谷和子	医学医療系免疫学	准教授	免疫学	博士(医学)	自己免疫病の病態の解明とその分子標的療法の基盤開発
松本 功	医学医療系内科(膠原病・リウマチ・アレルギー)	准教授	臨床免疫学、膠原病内科学	医学博士	自己免疫性関節炎の病因解明と制御
野口恵美子	医学医療系遺伝医学	准教授	ゲノムサイエンス、アレルギー	医学博士	アレルギー疾患のヒトゲノム解析
大橋 順	医学医療系分子遺伝疫学研究室	准教授	人類遺伝学、遺伝統計学、分子進化	博士(保健学)	遺伝統計学的解析、感染症重症化関連遺伝子解析
森島祐子	医学医療系内科(呼吸器)	講師	呼吸器内科学	博士(医学)	遺伝子改変喘息モデルマウスの解析
川口未央	医学医療系内科(呼吸器)	講師	呼吸器・アレルギー学	医学博士	気道上皮細胞におけるTSLP、IL-17Fの機能解析
坪井洋人	医学医療系内科(膠原病・リウマチ・アレルギー)	講師	臨床免疫学、膠原病内科学	博士(医学)	自己免疫性唾液腺炎の病因解明と制
近藤裕也	医学医療系内科(膠原病・リウマチ・アレルギー)	講師	臨床免疫学、膠原病内科学	博士(医学)	転写分子による自己免疫性関節炎の制御
田原聡子	医学医療系免疫学	助教	免疫学	H24.3取得予定 医学博士	アレルギー疾患の分子標的療法の基盤開発
大石久史	医学医療系 解剖学・発生学および生命科学動物資源センター	助教	自己免疫疾患発症機構の解析	博士(医学)	遺伝子改変マウスの解析
川崎 綾	医学医療系分子遺伝疫学研究室	研究員	ゲノム医科学	博士(医学)	膠原病を中心とするヒト自己免疫疾患のゲノム解析

キーワード(5つまで)	難治性免疫疾患	アレルギー	遺伝学	免疫学	臨床免疫学
キーワード(英語)	Autoimmune disease	Allergy	Genome	Immunology	Clinical Immunology
研究グループHP	URLを記載してください。 http://www.md.tsukuba.ac.jp/images/group.html				
研究グループ概要(100字程度)					
<p>難治性免疫疾患およびアレルギー疾患を対象として、その発症の分子機構を明らかにし、発症機序に基づく免疫分子、免疫細胞を標的とした新規治療戦略を開発することを目的とする。</p>					
研究グループ概要(英語)					
<p>The purpose of this research group is to clarify the molecular mechanism in autoimmune diseases and allergy, and to development the new therapeutic strategies against pathogenic target molecules.</p>					
設置の目的及び必要性					
<p>難治性免疫疾患およびアレルギー疾患発症における分子機構を明らかにし、免疫分子や免疫細胞を標的とした新しい治療法を開発する事を目的とする。発症機序の解明およびトランスレーショナルリサーチには、ヒトゲノム解析、分子生物学的解析、分子免疫学的解析、遺伝子改変マウスを応用したモデル動物の作製と解析など多角的なアプローチが必要となる。そのために、本研究プロジェクトチーム(リサーチユニット)を設立し、横断的かつ総合的なイノベーションリサーチを推進する。</p>					
研究計画					
<p>1)難治性免疫疾患研究プロジェクトにおいては、ヒトゲノム解析を土屋、大橋、川崎が担当する。分子免疫学的解析は、住田、松本、坪井、近藤、渋谷(彰)、渋谷(和)、田原が中心に行う。遺伝子改変マウスは、高橋、大石が作成し解析する。自己免疫疾患モデルマウスへの応用および解析は住田、松本、坪井、近藤、渋谷(彰)、渋谷(和)、田原が担当する。2)アレルギー疾患研究プロジェクトにおいては、ヒトゲノム解析を有波、野口、檜澤が担当する。分子免疫学的解析に関しては、川口、渋谷(彰)、田原、住田が進める。遺伝子改変マウスモデルの作成と解析は森島、渋谷(彰)、田原が行う。</p>					
研究・教育に期待される効果(箇条書き)					
<p>1)難治性免疫疾患およびアレルギー疾患の発症機序が解明されよう。 2)発症機序に基づく根治的な治療戦略の開発が可能となろう。 3)難治性免疫疾患およびアレルギー疾患の制御により患者のQOLおよび生命予後の著明な改善、医療費の削減が現実化することが期待される。</p>					

研究プロジェクト計画の概念図

